

地域づくり推進交付金活用事業

白板地区

令和5年度

交付金額：650,000円

取組み1 住みよい町づくり協議会事業

(1) 目的

住みよい町づくり協議会を開催し、子どもから大人まで安心していきいきと暮らすことのできる地域づくりを目指します。

(2) 取組み

ア 部会の活動

地域課題の解決において、3つの部会に分かれて課題を検討し、事業に取り組みました。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、新たな健康習慣を踏まえ、できる範囲で活動を続けました。

(7) 防災隊

「防災意識の向上と災害時に助け合える体制づくり」を活動目標に掲げ、防災講演会の開催、防災講座及び日赤奉仕団による炊出し訓練、町会防災マップの修正・配布、シェイクアウト訓練への参加、防災備品の整備などを行いました。

○防災講演会(令和6年1月20日)



○防災講座・日赤奉仕団による親子炊き出し訓練(令和6年3月23日)





(イ) すこやか隊(高齢者支援)

活動目標に掲げた3本柱(①福祉ひろばでの「100えんカフェ」の開催、②買い物支援、③担い手づくり)に取り組みました。

福祉ひろばから離れた地区からも「100えんカフェ」やひろば事業に来られるよう、タクシーを活用した送迎を実施しています。

白板地区ケア会議として介護予防講座を開催し「フレイル・認知症と向き合う」～安全・安心な老後を過ごすために～について地区内で学習、情報共有しました。誰もが平等に参加できる地域共生の実現に向けて、「凸凹カフェ」を実施し、買い物支援・移動支援について考える「凸凹マルシェ」を開催しました。また、高齢者の困りごと等の実態把握をし、取組みを進めるため、地区内で生活実態調査を実施しました。

○100円カフェの開催



(相続セミナー)



(オカリナ・コンサート)



(お楽しみビンゴ大会)



(e-sports 体験会)

○凸凹カフェ(7月19日)



○凸凹カフェ in 夏祭り(8月19日)



○凸凹マルシェ(12月2日)



(ウ) つながり隊 (子供育成)

「子どもの支援と住民同士の交流の充実を図る」ことを活動目標として掲げ、活動しました。

毎月第2水曜日を中心に、田川小学校及び開智小学校児童の下校時の見守り活動を実施しました。

白板地区子ども会育成会との共催事業「焼きいも大会」の11月11日開催に向け、食育を兼ねてサツマイモを栽培しました。焼きいも大会自体は、新型コロナの影響もあり2年ぶりの開催となり、約300人が参加しました。

○田川・開智小学校の下校時見守り活動(毎月第2水曜日)



○焼き芋大会(サツマイモの植付け・収穫・焼き芋大会)



(植付け)



(収穫)



(焼き芋大会)

イ 会報「白板地区だより」の発行(毎月)

協議会の活動を広く地区住民の皆さんに知らせるため、協議会だより、公民館だより、福祉ひろばだよりを一体化した「白板地区だより」を毎月発行し、全戸配布しました。

同時に松本市ホームページにも掲載し、誰でも閲覧できる環境を整えました。



(3) 今後の展開

各部会で検討された課題解決に向けて取り組むとともに、多くの方に興味や関心をもってもらえるよう、広報の充実に努めます。

取組み2 地域の防災体制整備事業

(1) 目的

地区内の防災体制を整備し、災害発生時にお互いに助け合える地域づくりを進めます。

(2) 取組み

「防災隊部会」において、備蓄品の保管や災害時の対策を検討した結果、令和6年1月1日発生の能登半島地震等を踏まえ、災害時に最低限なにが必要かを検討し、災害時に使用できるウォータータンク200ℓ、ソーラーパネル、蓄電池等を購入しました。



(ウォータータンク)



(ソーラーパネル・ポータブルバッテリー)

また、町会で作成した防災マップ(災害時の一時集合場所や要援護者宅を記載した地図)を見直し、修正した最新の地図を町内に配布しました。

(3) 今後の展開

ア 災害時でもスムーズに活用できるよう、令和6年度には災害対策基金を有効に活用し防災備品の整備を図っていきます。

イ 防災には、住民同士の日頃のコミュニケーションが重要です。しかし、コロナ禍や社会情勢の変化等で人間関係がますます希薄となっています。そこで、令和6年度の協議会の全体目標を引き続き「白板地区をつなぐ、顔の見える関係づくり」とし、お互いに助け合いの「わ(和・輪)」を広げていきます。